

---

## 中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

---

2007年8月24日号

◎2007年7月小麦市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年7月における小麦市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 春小麦は収穫期に、気象条件は全体に良好

7月中旬は、内蒙古自治区のオルドス（内蒙古西南部）灌漑区では雨が少なく、気温が高かったことが、春小麦の収穫に非常に有利に作用した。寧夏回族自治区の灌漑区でも適温で雨が少なく、春小麦の刈り入れや陰干しに十分有利となった。7月下旬は、新疆ウイグル自治区の大部分の春小麦が成熟に達した。甘肅省の春小麦は成熟期から収穫期となり、気象条件も春小麦の収穫・陰干しに有利な条件にある。青海省は全省牧区の大部分の春小麦が抽穂期（穂の出る時期＝出穂期）から乳熟期（開花・受粉後、実の中に澱粉その他栄養分を蓄え始める時期）に至ったものの、各地の気温が低めであるため、春小麦の灌漿乳熟（結実期に植物の脈管を通してでんぷんが送られ、ミルク状の結球になることで、これが後に実となる）にはあまり有利な条件にはない。

2 上半期の小麦輸出は前年増、輸入は減少

海関統計によると、6月の中国の小麦輸出は引き続き快調に増加したものの、輸入は大幅に減少した。同月の小麦輸出量は28.14万トンで、前月比12.52%増、前年同月比20.34倍増となった。輸入量は0.18万トンで、前月比29.2%減、前年同月比96.11%減となった。上半期の累計輸出量は、前年同期比1.95倍の90.86万トン、累計輸入量は同77.27%減の7.03万トンとなった。上半期の小麦輸入の主要相手先はカナダの4.41万トン及びオーストラリアの2.05万トンで、それぞれ輸入総量の63%及び29%を占めている。

### 3 2007/08年度の国内需給は基本的に安定、国際需給は比較的ひっ迫

【国内市場】2007/08年度（2007年6月～2008年5月）における国内の小麦生産は、安定的に発展すると予測されている。国内の小麦消費総量は、前年度に比べやや増加し、そのうち食用消費は基本的に安定、飼料用消費及び工業用消費は比較的大きく増加するとみられている。当年度の国内小麦供給量は、需給を満足するものとみられ、小麦の期末在庫量は、前年に比べ小幅ながら増加すると予測されている。

【国際市場】7月の米国農務省（USDA）の予測によると、2007/08年度の世界の小麦生産量は、前月の予測に比べ212万トン上方修正、消費量は20万トン下方修正、期末在庫量は452万トン上方修正、貿易量は28.5万トン上方修正された。前年度に比べ、生産量は小幅増、消費量はやや微減、期末在庫量は比較的大きく減少とされる。2007/08年度の世界の小麦生産量は、前年度比3.25%（1,929万トン）増の61,227万トンと予測され、うちオーストラリアは1.3倍増、米国は18%増、インドは6.27%増となった一方、カナダは10.94%減と見積もられている。当年度の期首在庫量は12,415万トン、小麦総供給量は前年度比0.77%減の73,642万トン、小麦総消費量は0.30%減の61,987万トンで、うち飼料用消費は2.82%減の10,330万トンと予測されている。これにより、当年度の世界の小麦生産量は需要量を満たすことができず、期末在庫量は6.12%減の11,655万トンと見積もられ、1982/83年度以来25年間で最低水準とみられている。世界の小麦在庫／消費比は18.80%で、前年度に比べ1.29ポイント減、1960/61年度以来最低の水準と予測され、国連食料農業機関（FAO）の想定する食糧安全警戒ラインに接近している。

2007/08年度の世界の小麦輸入量は、前年度比2.95%減の10,522万トンと予測されている。輸出量は0.45%増の10,757万トンで、うちオーストラリア及び米国は、国内生産の増加により、それぞれ16.67%増及び14%増、逆にカナダ及びアルゼンチンは、国内生産の減少により、それぞれ21.88%減及び20.83%減とみられている。

### 4 国内の新収穫麦の買い付けが活発、古麦の市場は基本的に安定

#### （1）国内の新収穫麦（新麦）の買い付けが活発

7月は、中国の新麦買い付けがピーク期に入り、備蓄食糧の委託買上や最低買上価格政策による買い上げを除くと、一部の加工企業は、古麦の競売価格や輸送コストが高いことから、新麦の買い付けに重点を置き、企業によっては農家または仲買人との交渉を数多く行い、食糧買い付けを奨励する措置を繰り返し実施したところもある。統計によると、7月31日までに、河北省など9省の小麦主産省の食糧企業の新麦の累計買付量は3,205.1万トンで、そのうち国有食糧企業の買付量が89.7%を占めた。最低価格による買い上げを実施した6省の食糧備蓄委託倉庫の最低価格買上量は、全国の国有食糧企業

の買上量の84.2%となった。

7月の国有食糧企業の新麦買付価格は、白麦が前年同月比4.26%高の100斤（約50kg：1斤＝約500グラム）当たり73.49元、紅麦が1.55%高の69.86元、混合麦が0.97%高の69.91元となった。山東省、河北省、河南省における7月下旬の価格は、前期に比べやや上昇した。個人米穀商が村の農家を巡って買い付ける小麦の価格は、国有食糧企業の入庫価格よりもやや低く、白麦が前年同月比4.5%高の100斤当たり71.21元、紅麦が3.09%高の67.68元、混合麦が2.15%高の67.57元となった。

## （2）古麦卸売価格は基本的に安定

新麦市場の活発さに対し、古麦市場は安定的な動きを呈している。7月26日までに、2006年の最低買上価格小麦の競売が34回にわたって行われ、計画競売量2,774.24万トンに対し、実際の成約量は1,448.19万トン、成約率は52.20%となった。そのうち河南省の成約率は、40.78%であった。現在までのところ、2006年最低買上価格小麦総量に占める競売成約量の割合は、35.54%となっている。7月の鄭州市（河南省の省都）の食糧卸売市場における普通小麦（一般品質の小麦）の卸売価格は、1トン当たり1,502.50円で、前月比0.08%安、前年同月比6.86%高となった。同じく優良小麦については1,607.5円で、前月比1.2%安、前年同月比1%安となった。優良小麦価格は、昨年6月以来初の前年同月安となった。

## 5 国際小麦価格は引き続き大幅上昇、国内小麦価格との価格差は引き続き拡大

小麦在庫量が世界的に減少を続け、需給が逼迫していることなどから、7月の小麦の国際価格は、引き続き大幅に上昇した。

【現物取引】7月の米国西北太平洋における硬紅冬麦（たんぱく質含有量12%）の平均港湾価格（本船渡し価格＝FOB価格）は、前月比8.38%高・前年同月比20.39%高の1トン当たり249.50ドルとなった。硬紅春麦（たんぱく質含有量14%）の平均FOB価格は、前月比8.11%・前年同月比16.44%高の259.67ドルとなった。

【先物価格】7月のカンザス先物取引所における硬紅冬麦の平均先物価格は、前月比8.92%高・前年同月比22.03%高の1トン当たり223.27ドルとなった。ミネアポリス先物取引所における硬紅春麦の平均先物価格は、前月比9.31%高、前年同月比22.97%高の同231.11ドルとなった。

国際価格及び海上輸送費の大幅上昇の影響を受け、7月は小麦の内外価格差が引き続き拡大した。関税、増値税及び港湾諸経費などを含め総合的に考慮すると、7月の米国西北太平洋における硬紅冬麦（たんぱく質含有量12%）の通関渡し価格（Duty Paid：CIF

+関税等)は、同月の国内優良小麦の消費地における卸売価格に比べ、1トン当たり968元高く、前月に比べ価格差が309元拡大した。